

# 福島から次世代へ！ 国外へ！ オーガニックコットンで想いをつなげる プロジェクト step1~3

活動地域  福島県

復興支援助成

3年目

実践

コットン栽培  
参加大学生 **48人**

草木染め教室への  
参加者 **30人**

今年度計画の達成度 **100%**

全体計画の達成度 **100%**



コットン畑で汗を流す

## 苦勞した点と工夫した点

### ■ 苦勞した点

大学生が主導的に動く場面も見られたが、事業全体を学生自身で自主的に企画運営するには至らなかった。海外へ伝える点では、ネパールでの広がりを持てなかった。

### ■ 工夫した点

大学生の活動は、様々な活動場面を設定した。海外の事業は、新型コロナウイルス禍の中、2年間はオンラインでつなぎ、3年目に実際にスタッフを派遣して想いを直接伝えた。

## 課題

東日本大震災後の福島浜通りでは復興が進む反面、震災体験の風化が進み、若い世代との学びや教訓の共有には大きな課題が残る。さらに地域外や国外ではなおさらである。

## 目標

福島と地域外、特に国外の若い世代を対象とした東日本大震災とその後の環境配慮型の取組みを通じた学びの共有が、若者自身の手で進められる。

## 活動内容と成果

コットン栽培に関わった大学生たちは、栽培現場のみならず、学園祭での活動紹介ブースとコットンアイデアコンテストの運営、草木染め教室、エコプロダクツ2022会場内でのプロジェクト説明と糸紡ぎ体験講師といった本事業の様々な場面で活躍。県立高校に糸紡ぎの講師役として招かれる域にまで達した。世代を超えたプロジェクトの意義の伝承が進んだ。海外へ伝える部分については、事業の最終年度によりやく現地をスタッフが訪問し、糸紡ぎの手法と併せて本プロジェクトの取組み内容やその意義を伝えることができた。



天然染料で思い思いに染めを楽しむ

## 全助成期間の活動を振り返って

新型コロナウイルス禍の中で活動が思うように進められない時期が長く続いたが、与えられた条件の範囲内ではあったが本事業に関しては工夫を重ねながら進めることができた。大学生とのコラボは、CASNETジャパンにおいて表彰されるという成果を本事業2年目に残した。それにより、今後も継続実施の見込みが大きくなっている。本事業の中で育成された若い人材が、地域内外で活躍する場面も生み出されており、大きな成果を残した。



3年目に果たしたネパール現地訪問

〒971-8168  
福島県いわき市小名浜君ヶ塚町13-6  
電話：0246-52-2511  
E-mail：the-people@email.plala.or.jp  
HP：https://npo-thepeople.com/



## 今後の展望

今後、ふくしまオーガニックコットンプロジェクトとしての事業運営の中で、地域内にいかに賛同者を増やしていくかが大きな課題となっている。「小学3年生の時にコットン栽培を行った経験があります。大学に入ってまたコットン栽培に関わるとは思いませんでした」。事業に参加した地元出身学生の弁である。こうした、様々な年代でのコットン栽培体験を通して、意義や活動内容の伝承が地域内で進められるような仕組みづくりを行いたい。

